

# 相談援助演習①

## 本演習の目的（厚生労働省シラバスより抜粋）

- 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。

② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。

ア 自己覚知

イ 基本的なコミュニケーション

技術の習得

ウ 基本的な面接技術の習得

事例等を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。

(ア) インテーク

(イ) アセスメント

(ウ) プランニング

(エ) 支援の実施

(オ) モニタリング

(カ) 効果測定

⇒ (キ) 終結とアフターケア

ア 自己覚知に進む前に・・・

「アクロステイク」で自己紹介しよう

アクロステイクとは、「あいうえお」作文です(\*^\_^\*)

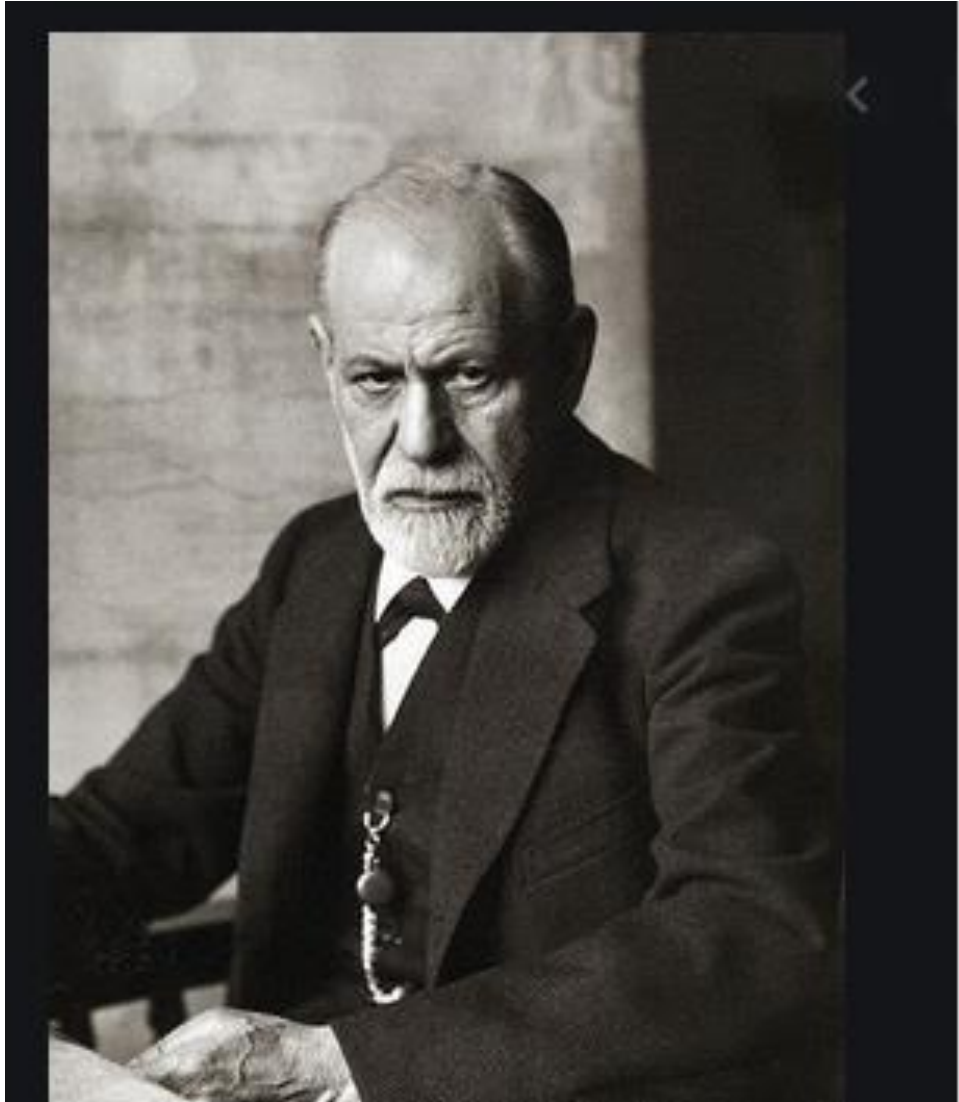
浅田真央選手 ⇔  
アイスクリームと  
サイダーと  
たこ焼きと  
マスクメロンが大好きな  
女の子、  
「あさだまお」と申します。

# 自己覚知

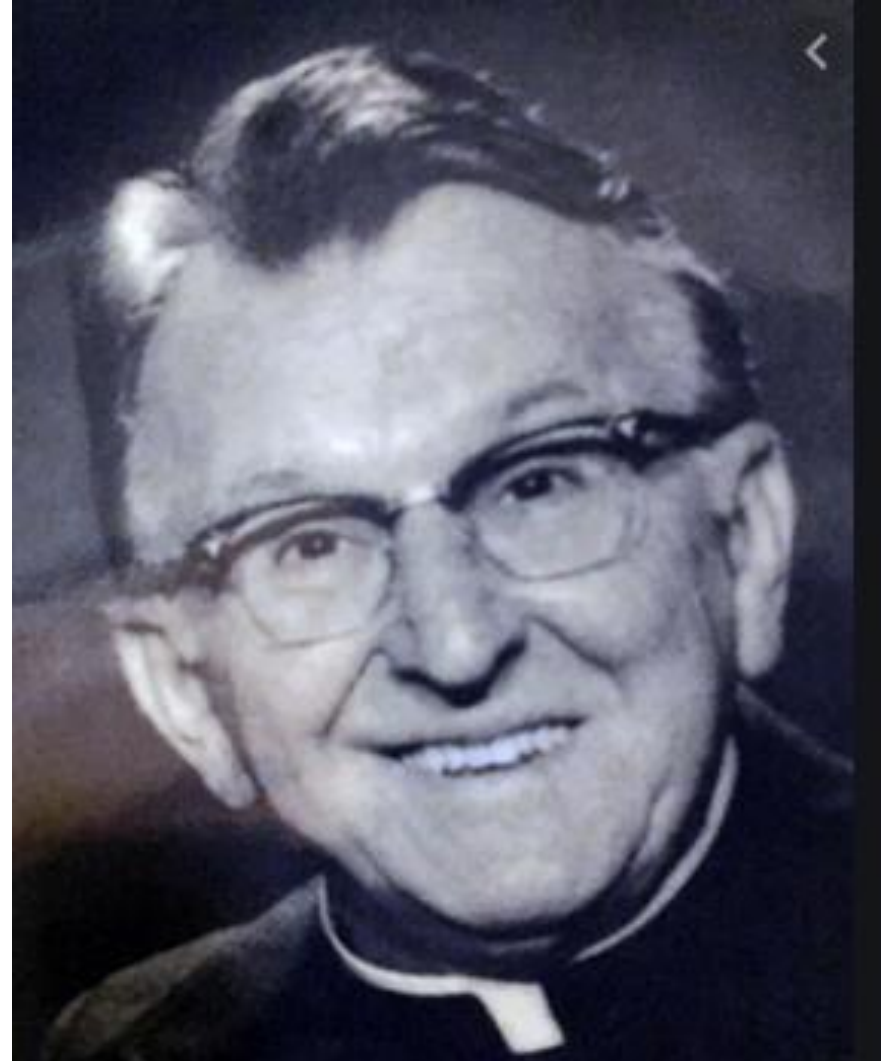
自己覚知は、主に社会福祉学の中で使用され、重要な概念と扱われてきた。Sフロイト理論の影響を受けたソーシャルワーク診断派のGハミルトンが、「ワーカーならだれでも、このような複雑な転移を理解しなければならない」とソーシャルワーカーの転移理解の必要性を述べたことに始まる。その後、ソーシャルワークは治療関係としての医学モデルであるという時代を迎え、自己覚知は、ケースワーカーの専門的成長のために必須のものと重要視されていった。F.Pバイスティックは「自覚して吟味する」として、クライアントの感情に参加する際にワーカー自身の内面に生じている反応の理解の重要性を広めた。



S.Freud(フロイト)



バイステイック



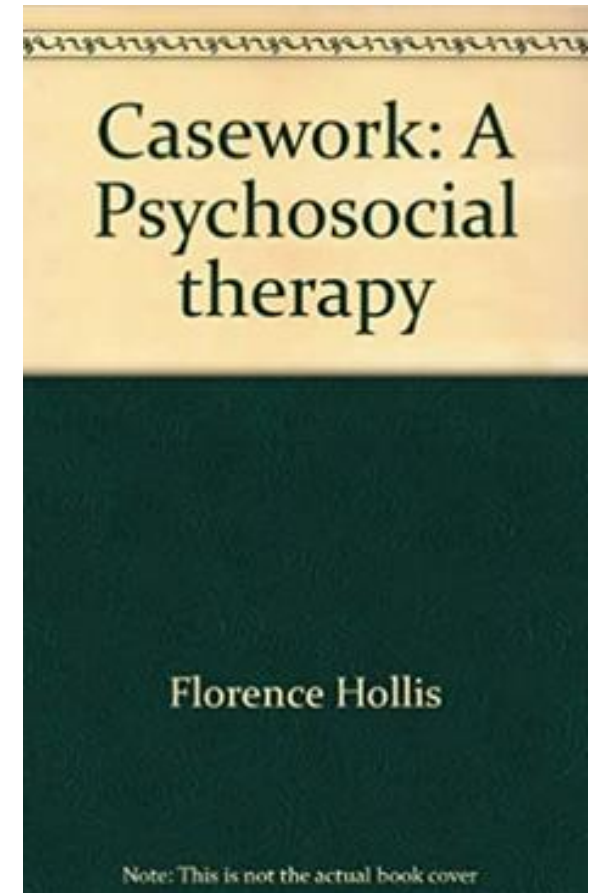
Sフロイトは、患者から治療者に引き起こされる過去の未解決の感情の転移を逆転移(Counter Transference)としたが、診断派を活性化させたFホリスは、この逆転移に警鐘を鳴らし、今日の自己覚知概念の形成に決定的な影響を与えた。

「ワーカーのための訓練の非常に重要な部分は、この非現実的な反応をする傾向(逆転移をする傾向)を自覚することからなり立っている」と逆転移への着目とその自覚によるコントロールを主張したことが今日まで社会福祉分野で自己覚知が使用される基点となっている。

(中略)

自己覚知は「ケースワーカーが自らの個人的な、非現実的な感情を意識化し、コントロールするようになっていく」ことがソーシャルワーク論に導入されてきた。

# F ホリス



秦康宏 『社会福祉従事者における自己覚知と専門職意識の生成プロセスの関係』

[researchmap.jp](http://researchmap.jp) › [published\\_papers](#) › [attachment\\_file](#) P.1 抜粋

逆転移とは、治療者が被治療者に対して無意識に自分の感情を向けてしまうことである。

[www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/07\\_0019.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/07_0019.pdf)より

# 演習 「私は ～ 」

- 私は〇〇〇である。という陳述を相手の人に話しましょう。
- 聞き手の方は、「記録してさしあげて」ください。

# 演習 人生曲線

- 自分にとっての「いい時期」だったと肯定的に振り返ることができるものを上昇曲線でしるし、逆に「わるい時期」だったと振り返ることができるものを下降曲線でしめして、自らの人生をグラフで書いてもらいましょう。
- それぞれのエポック（くぎり・ふしめ）となる時期には、印をいれてその出来事を記してもらいましょう。

# 相談援助演習②

2021/1/16 Sat.

基本的なコミュニケーション技術の習得



# 基本的な面接技術